



JFP リファレンスマニュアル7: デ バイスとネットワークインタ フェース

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 816-4000-10
2002年5月

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L、HG-MincyoL-Sun、HG ゴシック B、および HG-GothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HG 平成明朝体 W3@X12 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。



020320@2851



目次

はじめに 5

JFP リファレンスマニュアル 7: デバイスとネットワークインタフェース 9

Intro_jfp(7) 10

jaio(7I) 12

jconv7(7M) 13

jconv8(7M) 15

jconvrs(7M) 17

jconvru(7M) 18

jconvs(7M) 19

jconvu(7M) 20

はじめに

概要

SunOS リファレンスマニュアルは、初めて SunOS を使用するユーザーやすでにある程度の知識を持っているユーザーのどちらでも対応できるように解説されています。このマニュアルを構成するマニュアルページは一般に参照マニュアルとして作られており、チュートリアルな要素は含んでいません。それぞれのコマンドを実行すると、どのような結果が得られるかについて、詳しく説明されています。なお、各マニュアルページの内容はオンラインでも参照することができます。

このマニュアルは、マニュアルページの内容によっていくつかのセクションに分かれています。各セクションについて以下に簡単に説明します。

- セクション 1 は、オペレーティングシステムで使えるコマンドを説明します。
- セクション 1M は、システム保守や管理用として主に使われるコマンドを説明します。
- セクション 2 は、すべてのシステムコールについて説明します。ほとんどのシステムコールに 1 つまたは複数のエラーがあります。エラーの場合、通常ありえない戻り値が返されます。
- セクション 3 は、さまざまなライブラリ中の関数について説明します。ただし、UNIX システムプリミティブを直接呼び出す関数については、セクション 2 で説明しています。
- セクション 4 は、各種ファイルの形式について説明します。また、ファイル形式を宣言する C 構造体を適用できる場合には随時説明しています。
- セクション 5 は、文字セットテーブルなど他のセクションには該当しないものについて説明します。
- セクション 7 は、特殊なハードウェア周辺装置またはデバイスドライバに関するさまざまな特殊ファイルについて説明します。STREAMS ソフトウェアドライバ、モジュール、またはシステムコールの STREAMS 汎用セットについても説明します。

以下に、このマニュアルの項目を表記されている順に説明します。ほとんどのマニュアルページが下記の項目からなる共通の書式で書かれていますが、必要でない項目については省略されています。たとえば、記述すべきバグがコマンドにない場合などは、「使用上の留意点」という項目はありません。各マニュアルページの詳細は各セクションの intro を、マニュアルページの一般的な情報については man(1) を参照してください。

名前	コマンドや関数の名称と概略が示されています。
形式	コマンドや関数の構文が示されています。標準パスにコマンドやファイルが存在しない場合は、フルパス名が示されます。字体は、コマンド、オプションなどの定数にはボールド体 (bold) を、引数、パラメータ、置換文字などの変数にはイタリック体 (Italic) または <日本語訳> を使用しています。オプションと引数の順番は、アルファベット順です。特別な指定が必要な場合を除いて、1文字の引数、引数のついたオプションの順に書かれています。 以下の文字がそれぞれの項目で使われています。 [] このかっこに囲まれたオプションや引数は省略できません。このかっこが付いていない場合には、引数を必ず指定する必要があります。 ... 省略符号。前の引数に変数を付けたり、引数を複数指定したりできることを意味します (例: 'filename...')。 区切り文字 (セパレータ)。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定できます。 { } この大かっこに囲まれた複数のオプションや引数は省略できます。かっこ内を 1 組として扱います。
プロトコル	この項が使われているのは、プロトコルが記述されているファイルを示すサブセクション 3R だけです。パス名は常にボールド体 (bold) で示されています。
機能説明	コマンドの機能とその動作について説明します。実行時の詳細を説明していますが、オプションの説明や使用例はここでは示されていません。対話形式のコマンド、サブコマンド、リクエスト、マクロ、関数などに関しては「使用法」で説明します。
IOCTL	セクション 7 だけに使用される項です。ioctl(2) システムコールへのパラメータは ioctl と呼ばれ、適切なパラメータを持つデバイスクラスのマニュアルページだけに記載されています。特定のデバイスに関する ioctl は、(そのデバイスのマニュアルページに) アルファベット順に記述されています。デバイスの特定のクラスに関する ioctl は、mtio(7I) のように io で終わる名前が付いているデバイスクラスのマニュアルページに記載されています。

オプション	各オプションがどのように実行されるかを説明しています。「形式」で示されている順に記述されています。オプションの引数はこの項目で説明され、必要な場合はデフォルト値を示します。
オペランド	コマンドのオペランドを一覧表示し、各オペランドがコマンドの動作にどのように影響を及ぼすかを説明しています。
出力	コマンドによって生成される出力 (標準出力、標準エラー、または出力ファイル) を説明しています。
戻り値	値を返す関数の場合、その値を示し、値が返される時の条件を説明しています。関数が 0 や -1 のような一定の値だけを返す場合は、値と説明の形で示され、その他の場合は各関数の戻り値について簡単に説明しています。void として宣言された関数はこの項では扱いません。
エラー	失敗の場合、ほとんどの関数はその理由を示すエラーコードを <code>errno</code> 変数の中に設定します。この項ではエラーコードをアルファベット順に記述し、各エラーの原因となる条件について説明します。同じエラーの原因となる条件が複数ある場合は、エラーコードの下にそれぞれの条件を別々のパラグラフで説明しています。
使用法	この項では、使用する際の手がかりとなる説明が示されています。特定の決まりや機能、詳しい説明の必要なコマンドなどが示されています。組み込み機能については、以下の小項目で説明しています。
	<p>コマンド 修飾子 変数 式 入力文法</p>
使用例	コマンドや関数の使用例または使用方法を説明しています。できるだけ実際に入力するコマンド行とスクリーンに表示される内容を例にしています。例の中には必ず <code>example%</code> のプロンプトが出てきます。スーパーユーザーの場合は <code>example#</code> のプロンプトになります。例では、その説明、変数置換の方法、戻り値が示され、それらのほとんどが「形式」、「機能説明」、「オプション」、「使用法」の項からの実例となっています。
環境	コマンドや関数が影響を与える環境変数を記述し、その影響について簡単に説明しています。
終了ステータス	コマンドが呼び出しプログラムまたはシェルに返す値と、その状態を説明しています。通常、正常終了には 0 が返され、0 以外の値はそれぞれのエラー状態を示します。

ファイル	マニュアルページが参照するファイル、関連ファイル、およびコマンドが作成または必要とするファイルを示し、各ファイルについて簡単に説明しています。
属性	属性タイプとその対応する値を定義することにより、コマンド、ユーティリティ、およびデバイスドライバの特性を一覧しています。詳細は <code>attributes(5)</code> を参照してください。
関連項目	関連するマニュアルページ、当社のマニュアル、および一般の出版物が示されています。
診断	エラーの発生状況と診断メッセージが示されています。メッセージはボールド体 (bold) で、変数はイタリック体 (<i>Italic</i>) または <日本語訳> で示されており、C ロケール時の表示形式です。
警告	作業に支障を与えるような現象について説明しています。診断メッセージではありません。
注意事項	それぞれの項に該当しない追加情報が示されています。マニュアルページの内容とは直接関係のない事柄も参照用に扱っています。ここでは重要な情報については説明していません。
使用上の留意点	すでに発見されているバグについて説明しています。可能な場合は対処法も示しています。

JFP リファレンスマニュアル7: デバイスとネットワークインタフェース

Intro_jfp(7)

名前	Intro_jfp, intro_jfp – JFP の特殊ファイル																
機能説明	<p>本セクションは、システムで利用される さまざまなデバイスやネットワークインタフェースについて説明します。インタフェースのタイプには、キャラクタ型デバイス、ブロック型デバイス、STREAMS モジュール、ネットワークプロトコル、ファイルシステム、ドライバのサブシステムやクラスへの ioctl 要求が含まれます。</p> <p>JFP では次のセクションが含まれています。</p> <p>(7I) ドライバまたはサブシステムのクラスに適用される ioctl 要求について説明します。特定のデバイスだけに関連のある ioctl 要求は、そのデバイスについて説明している マニュアルページに記述しています。あるデバイスの ioctl について参照する場合には、このセクション 7I で列挙されている ioctl に対する例外がないか調べるために、個々のデバイスのマニュアルページも 参照する必要があります。</p> <p>(7M) このセクションでは STREAMS モジュールについて説明します。STREAMS ドライバについてはセクション 7D で説明していますので、注意してください。streamio(7I) には、STREAMS モジュール、STREAMS 構成とのインタフェースの操作に使用する ioctl 要求のリストが含まれています。ある STREAMS モジュール特有の ioctl 要求については、そのモジュールのマニュアルページで記述されます。</p>																
関連項目	<p>add_drv(1M), rem_drv(1M), intro(2), ioctl(2), socket(3SOCKET), driver.conf(4), intro(7), arp(7P), icmp(7P), inet(7P), ip(7P), mtio(7I), st(7D), streamio(7I), tcp(7P), udp(7P)</p> <p>『Solaris のシステム管理 (IP サービス)』</p> <p>『STREAMS Programming Guide』</p> <p>『Writing Device Drivers』</p>																
一覧	<table><thead><tr><th>名前</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>Intro_jfp(7)</td><td>JFP の特殊ファイル</td></tr><tr><td>jaio(7I)</td><td>日本語環境 TTY/STREAMS 入出力インタフェース</td></tr><tr><td>jconv7(7M)</td><td>コード変換 STREAMS モジュール (JIS (7 ビット)/日本語 EUC)</td></tr><tr><td>jconv8(7M)</td><td>コード変換 STREAMS モジュール (JIS (8 ビット)/日本語 EUC)</td></tr><tr><td>jconvrs(7M)</td><td>コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/PC 漢字)</td></tr><tr><td>jconvru(7M)</td><td>コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/UTF-8)</td></tr><tr><td>jconvsv(7M)</td><td>コード変換 STREAMS モジュール (PC 漢字/日本語 EUC)</td></tr></tbody></table>	名前	説明	Intro_jfp(7)	JFP の特殊ファイル	jaio(7I)	日本語環境 TTY/STREAMS 入出力インタフェース	jconv7(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (JIS (7 ビット)/日本語 EUC)	jconv8(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (JIS (8 ビット)/日本語 EUC)	jconvrs(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/PC 漢字)	jconvru(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/UTF-8)	jconvsv(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (PC 漢字/日本語 EUC)
名前	説明																
Intro_jfp(7)	JFP の特殊ファイル																
jaio(7I)	日本語環境 TTY/STREAMS 入出力インタフェース																
jconv7(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (JIS (7 ビット)/日本語 EUC)																
jconv8(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (JIS (8 ビット)/日本語 EUC)																
jconvrs(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/PC 漢字)																
jconvru(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/UTF-8)																
jconvsv(7M)	コード変換 STREAMS モジュール (PC 漢字/日本語 EUC)																

jconvu(7M)

コード変換 STREAMS モジュール (UTF-8/日本語
EUC)

jaio(7I)

名前	jaio – 日本語環境 TTY/STREAMS 入出力インタフェース
形式	<code>#include <sys/jaio.h></code>
機能説明	<p>jaio は JFP で提供される STREAMS モジュールに対する入出力の制御を行います。</p> <p>以下の呼び出しは引数として構造体 <code>kioc</code> へのポインタを取ります。</p> <pre>struct kioc { char ki; char ko; };</pre> <p>JA_SKIIOC JA_SKIIOC は JIS で定められている漢字 IN/OUT エスケープ・シーケンスの 3 文字目を現在プッシュされているコード変換モジュール (<code>jconv7(7M)</code> と <code>jconv8(7M)</code>) に設定します。</p> <p>JA_GKIOIC JA_GKIOIC は現在プッシュされているコード変換モジュール (<code>jconv7(7M)</code> と <code>jconv8(7M)</code>) で使用されている漢字 IN/OUT エスケープ・シーケンスの 3 文字目を返します。</p>
使用例	<p>以下に IOCTL の例を示します。</p> <pre>#include <sys/jaio.h> struct kioc ja_kio; struct strioctl cmd; . . ja_kio.ki = '[input escape char]'; ja_kio.ko = '[output escape char]'; cmd.ic_cmd = JA_SKIIOC; cmd.ic_timeout = 0; cmd.ic_len = sizeof(kioc_t); cmd.ic_dp = (char *)&ja_kio; ioctl(0, I_STR, &cmd); . .</pre>
ファイル	<code>/sys/jaio.h</code>
関連項目	<code>jtty(1)</code> , <code>jconv7(7M)</code> , <code>jconv8(7M)</code>

名前	jconv7 - コード変換 STREAMS モジュール (JIS (7 ビット)/日本語 EUC)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconv7");</pre>
機能説明	<p>jconv7 はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は RAW デバイス・ドライバ (ptem(7M) など) と端末回線モジュール (ldterm(7M)) との間にプッシュされるものです。</p> <p>jconv7 は 7 ビット JIS 端末を接続して、日本語 EUC データを操作する場合にプッシュしておくもので、7 ビット JIS コードの入カストリーム (up stream) を日本語 EUC に変換し、上位モジュールへ渡します。また、日本語 EUC の出カストリーム (down stream) は 7 ビット JIS コードに変換し、下位モジュールへ渡します。</p>
IOCTLS	<p>jconv7 は次の ioctl 呼び出しを処理します。最初の 2 つの呼び出しは引数として次の構造体へのポインタを取ります。</p> <pre>struct kioc { char ki; char ko; };</pre> <p>JA_SKIIOC JIS の漢字および ASCII 指示 エスケープ・シーケンスの 3 文字目を設定します。</p> <p>JA_GKIOC 現在使用している JIS の漢字および ASCII 指示 エスケープ・シーケンスの 3 文字目を返します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して JIS (7 ビット)/ 日本語 EUC 間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して JIS (7 ビット)/ 日本語 EUC 間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), streamio(7I), jconv8(7M), jconvrs(7M), jconvru(7M), jconvvs(7M), jconvru(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	<p>jconv7 と jconvrs(7M) または jconvru(7M) を同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には EUC_OXLON / EUC_OXLOFF を指定しなくても自動的にコード変換機能がオフになります。</p> <p>デフォルトの文字集合指示エスケープ・シーケンスは次のとおりです。終端文字は JA_SKIIOC により変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ASCII 指示: ESC 2/8 4/10 ■ 漢字指示: ESC 2/4 4/2 ■ JIS X 0201 カナとの切り替え: SI/SO

jconv7(7M)

jconv7 は JIS X 0212-1990 で規定される情報交換用漢字符号 (いわゆる補助漢字集合) に対応していません。

jconv7 の使用中は、csh(1) のファイル名補完機能が正しく動作しません。

名前	jconv8 – コード変換 STREAMS モジュール (JIS (8 ビット)/日本語 EUC)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconv8");</pre>
機能説明	<p>jconv8 はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は RAW デバイス・ドライバ (ptem(7M) など) と端末回線モジュール (ldterm(7M)) との間にプッシュされるものです。</p> <p>jconv8 は 8 ビット JIS 端末を接続して、日本語 EUC データを操作する場合にプッシュしておくもので、8 ビット JIS コードの入カストリーム (up stream) を日本語 EUC に変換し、上位モジュールへ渡します。また、日本語 EUC の出カストリーム (down stream) は 8 ビット JIS コードに変換し、下位モジュールへ渡します。</p>
IOCTLS	<p>jconv8 は次の ioctl 呼び出しを処理します。最初の 2 つの呼び出しは引数として次の構造体へのポインタを取ります。</p> <pre>struct kioc { char ki; char ko; };</pre> <p>JA_SKIIOC JIS の漢字および ASCII 指示 エスケープ・シーケンスの 3 文字目を設定します。</p> <p>JA_GKIOC 現在使用している JIS の漢字および ASCII 指示 エスケープ・シーケンスの 3 文字目を返します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して JIS (8 ビット)/ 日本語 EUC 間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して JIS (8 ビット)/ 日本語 EUC 間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), streamio(7I), jconv7(7M), jconvrs(7M), jconvru(7M), jconvvs(7M), jconvu(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	<p>jconv8 と jconvrs(7M) または jconvru(7M) を同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には EUC_OXLON / EUC_OXLOFF によって指定をしなくても自動的にコード変換機能がオフになります。</p> <p>デフォルトの文字集合指示エスケープ・シーケンスは次のとおりです。終端文字は JA_SKIIOC により変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ASCII 指示: ESC 2/8 4/10 ■ 漢字指示: ESC 2/4 4/2 ■ JIS X 0201 カナとの切り替え: LS1/LS0

jconv8(7M)

jconv8 は JIS X 0212-1990 で規定される情報交換用漢字符号 (いわゆる補助漢字集合) に対応していません。

jconv8 の使用中は、`ssh(1)` のファイル名補完機能が正しく動作しません。

名前	jconvrs - コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/PC 漢字)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconvrs");</pre>
機能説明	<p>jconvrs はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は端末回線制御モジュール (ldterm(7M)) と STREAMS 互換モジュール (ttcompat(7M)) の間にプッシュされます。</p> <p>jconvrs は PC 漢字データを操作する場合にプッシュしておくもので、日本語 EUC の入力ストリーム (up stream) を PC 漢字に変換し、上位モジュールへ渡します。また、PC 漢字の出力ストリーム (down stream) は日本語 EUC に変換し、下位モジュールへ渡します。さらに、jconvrs(7M) と組み合わせて用いることにより、PCK 環境における端末回線を制御します。</p>
IOCTLS	<p>jconvrs は次の ioctl 呼び出しを処理します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して日本語 EUC/PC 漢字間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して日本語 EUC/PC 漢字間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), PCK(5), streamio(7I), jconv7(7M), jconv8(7M), jconvru(7M), jconvrs(7M), jconvu(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	<p>jconvrs と jconvrs(7M)、jconvu(7M)、jconv7(7M)、または jconv8(7M) のいずれかを同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には EUC_OXLON / EUC_OXLOFF によって指定をしなくても自動的にコード変換機能がオフになります。</p> <p>jconvrs は、「OSF 日本語ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づいて日本語 EUC と PC 漢字との間のコード変換をサポートします。</p>

jconvru(7M)

名前	jconvru – コード変換 STREAMS モジュール (日本語 EUC/UTF-8)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconvru");</pre>
機能説明	<p>jconvru はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は端末回線制御モジュール (ldterm(7M)) と STREAMS 互換モジュール (ttcompat(7M)) の間にプッシュされます。</p> <p>jconvru は UTF-8 データを操作する場合にプッシュしておくもので、日本語 EUC の入力ストリーム (up stream) を UTF-8 に変換し、上位モジュールへ渡します。また、UTF-8 の出力ストリーム (down stream) は日本語 EUC に変換し、下位モジュールへ渡します。</p>
IOCTLS	<p>jconvru は次の ioctl 呼び出しを処理します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して UTF-8/日本語 EUC 間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して UTF-8/日本語 EUC 間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), streamio(7I), jconv7(7M), jconv8(7M), jconvrs(7M), jconv8(7M), jconvu(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	jconvru と jconvu、jconvrs、jconv7、または jconv8 のいずれかを同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には EUC_OXLON / EUC_OXLOFF によって指定をしなくても自動的にコード変換機能がオフになります。

名前	jconv - コード変換 STREAMS モジュール (PC 漢字/日本語 EUC)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconv");</pre>
機能説明	<p>jconv はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は RAW デバイス・ドライバ (ptem(7M) など) と端末回線モジュール (ldterm(7M)) との間にプッシュされるものです。</p> <p>jconv は PC 漢字端末を接続する場合にプッシュしておくもので、PC 漢字の入力ストリーム (up stream) を日本語 EUC に変換し、上位モジュールへ渡します。また、日本語 EUC の出力ストリーム (down stream) は PC 漢字に変換し、下位モジュールへ渡します。また、jconvrs(7M) と組み合わせて用いることにより、PCK 環境における端末回線を制御します。</p>
IOCTLS	<p>jconv は次の ioctl 呼び出しを処理します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して PC 漢字/日本語 EUC 間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して PC 漢字/日本語 EUC 間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), PCK(5), streamio(7I), jconv7(7M), jconv8(7M), jconvrs(7M), jconvru(7M), jconvu(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	<p>jconv と jconvrs(7M) または jconvru(7M) を同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には、EUC_OXLON / EUC_OXLOFF を指定しなくても自動的にコード変換機能がオフになります。</p> <p>jconvrs は、「OSF 日本語ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づいて PC 漢字と日本語 EUC との間のコード変換をサポートします。</p>

jconvu(7M)

名前	jconvu - コード変換 STREAMS モジュール (UTF-8/日本語 EUC)
形式	<pre>#include <sys/types.h> #include <sys/stropt.h> #include <sys/conf.h> ioctl(fd, I_PUSH, "jconvu");</pre>
機能説明	<p>jconvu はプッシュ可能な STREAMS モジュールです。通常は RAW デバイスドライバ (ptem(7M) など) と STREAMS 互換モジュール (ldterm(7M)) の間にプッシュされます。</p> <p>jconvu は UTF-8 端末を接続する場合にプッシュしておくもので、UTF-8 の入力ストリーム (up stream) を日本語 EUC に変換し、上位モジュールへ渡します。また、日本語 EUC の出力ストリーム (down stream) は UTF-8 に変換し、下位モジュールへ渡します。</p>
IOCTLS	<p>jconvu は次の ioctl 呼び出しを処理します。</p> <p>EUC_OXLON 入出力ストリームに対して UTF-8/日本語 EUC 間のコード変換を行うようにします。</p> <p>EUC_OXLOFF 入出力ストリームに対して UTF-8/日本語 EUC 間のコード変換を行わないようにします。</p>
関連項目	jtty(1), setterm(1), stty(1), streamio(7I), jconv7(7M), jconv8(7M), jconvrs(7M), jconvru(7M), jconvsv(7M), ldterm(7M), ptem(7M)
注意事項	jconvu と jconvrs(7M) または jconvru(7M) を同時に用いると、stty(1) コマンドで raw を指定した場合には EUC_OXLON / EUC_OXLOFF によって指定をしなくても自動的にコード変換機能がオフになります。